

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 国際化・グローバル化に対応した教職員スタッフの充実	→外国籍教員および外国での教育・研究歴をもつ教員の比率	B
2. 国際化・グローバル化に対応した教育課程の充実	→国際化、グローバル化などに対する理解を深める科目の設置	B
3. 国際化・グローバル化に対応した学生受入体制の充実	→受入時のオリエンテーション、学期途中・期末における出席/成績管理、アンケート調査・面接による実態調査など留学生受入体制の整備	B
4. 国際化・グローバル化に対応した語学能力の涵養	→必修科目「英語表現」において学生の使用言語も英語に限定する	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(現状説明) 国外からの学生の受け入れと、国内の学生の他国への留学や交流について、国外の提携大学との間で単位の相互認定を正確に進める制度などを作っている。これらの制度や、留学にかかわる情報の詳細を学生の間で普及させるため、教員・事務関係者・国内外の学生との間での交流会を定期的実施している。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 国外からの学生の受け入れに関しては、特にアジア各国からの学生（および院生）を中心として、積極的に学内外での広報を図っている。国内の学生の他国への留学や交流については、国外における提携大学の増設と、それらの大学で得た単位を学部で認定する制度を整え、学生向けに広報を図っている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	21	26	29	39	41	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	人	2	6	3	2	3	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.8	1.0	1.0	1.4	1.5	
			交換	%	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	15	19	18	7	14	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	人	30	32	16	35	28	
		在籍学生比率	長期	%	0.6	0.7	0.6	0.3	0.5	
			短期	%	1.1	1.2	0.6	1.3	1.0	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	1	0	0	0		
短期		人	3	4	2	1	0			
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	1	0	1	1	0		
		短期	人	65	51	55	51	37		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	海外からの学生の受け入れに関しては、2005年度から2009年度の過去5年間で、特に正規の受け入れが21名から41名、比率も0.8%から1.5%へ、およそ倍増させた。
その他	



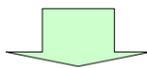
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	海外から受け入れる学生への支援制度を充実させ、それを国外向けに広報していくことで、今後さらに受け入れ数を増加させる検討を行う。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	海外への学生の派遣が、2005年から2009年まで、長期・短期いずれも人数・比率が増加せず、ほとんど横ばい状態になっている。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	海外での提携大学を増設し、単位認定のなど相互交流を促す制度を充実させるとともに、語学教育および文化教育のプログラムを整備して、海外での学習に対する学生の関心を高揚させるよう検討を行う。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学生の交流に海外の大学との単位互換制度は有効な手段のひとつですし、海外の提携大学の増加は評価できます。海外からの学生受け入れの増加も評価できます。学生の海外への派遣が伸びない原因について検討することが望まれます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1ですが、学部レベルで、国際交流の方針はとくに明示していませんか。大学に準じている場合でも、その旨を現状説明で述べておくのがよいと思います。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思えます。

○グローバル化への対応を進めるには、現状の対応可能な教職員スタッフ数は少ないと思われます。今後、このようなスタッフ数をさらに増員することが望まれます。

○また、国際交流を行っている学生数も増加傾向にはありますが、こちらも今後さらに増員することが望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ (7.0.1) 方針としては、「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」との大学の方針に沿って、学部の国際化・グローバル化を推進する。学部においても学部国際交流委員会を設置し、外国人留学生について春学期・秋学期にアンケート調査と教職員および外国人留学生との懇談会を実施するなど、留学生の受け入れ態勢の整備を進めている。

★ (7.0.2) 国際教育協力センターが推進するダブルディグリー制度について、2011年度の実施を目指し、提携校となるマウント・アリソン大学(カナダ)との協議・調整を推進している。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
